

「ライス・アートギャラリー」

図柄のデザインは、平泉所縁の人物などさまざま。これまでの力作を紹介します。

【第1回作品】
「平泉とロゴマーク」
(2009年度)



【第2回作品】
「平泉と金色堂覆堂」
(2010年度)



【第3回作品】
「絆」
(2011年度)



【第4回作品】
「馬上の義経」
(2012年度)



【第5回作品】
「芭蕉と曾良」
(2013年度)



【第6回作品】
「弁慶」
(2014年度)



【第7回作品】
「静御前と義経」
(2015年度)



【第8回作品】
「義経と秀衡の出会いの場」
「おもっち」
(2016年度)



【第9回作品】「西行法師と東稲山のさくら花」(2017年度)

密着！ 稲の生長物語



5月27日
田植えには約200人が参加し、図柄部分を4色の有色稲の苗に植え替えた



9月14日
稲が金色に色づき、見頃の時期とは違う景色が楽しめる



6月13日
稲の丈が伸びて徐々に色づきを増し、図柄部分の輪郭が出てきた



7月6日
見頃を迎え、訪れた人や通行人が高館橋からの眺めを楽しんでいた

稲の生長を楽しむ

夏場高館橋長島側の目の前の田んぼには、「西行法師と東稲山のさくら花」の図柄がきれいに浮かび上がり、道路沿いから眺めたり、写真に収めるなど町内外から訪れた大勢の人でにぎわいました。

町でライス・アート事業が始まったのは2009年。農事組合法人アグリ平泉が主催となり、田植えから稲刈りまでの間、楽しみながら稲の生長を見られるように、1畝の田んぼに「平泉」の文字と「平泉の文化遺産のロゴマーク」の絵柄を、色の異なる2色の稲で描きました。その後は回数を重ねるたびに、より複雑な図柄に挑戦。使用

【特集】

ライス・アート in ひらいずみ

田んぼをキャンパスに見立て、稲の葉や穂の色の違いを利用して巨大な絵を描くライス・アート。

ライス・アートは地域交流の促進と農業振興、観光振興を目的に、農事組合法人アグリ平泉(佐々木正代表理事)が主催となり、今年で9回目を数えます。今月号の特集は、大勢の目を楽しませた「ライス・アート in ひらいずみ」の取り組みについて紹介します。

する稲の色も緑のほか、紫、赤、白、黄の合計5色に増え、まさに「アート」と呼ぶのにふさわしい出来栄えとなっています。

みんなで収穫の秋を体感

10月21日、「ライス・アート in ひらいずみ」の稲刈り体験が開催されました。稲刈り体験には町内外から約1000人が参加。大勢の目を楽しませた「西行法師と東稲山のさくら花」の図柄をみんなで刈り取り、収穫の秋を体感しました。

作業後には郷土芸能を鑑賞しながら、県産オリジナル品種米「金色の風」を使ったおにぎりや芋の子汁を味わい、参加者は和やかな秋のひとときを過ごしていました。